

日本共産党東京都議会議員（厚生委員）

藤田りょうこの都政報告



連絡先 藤田りょうこ事務所 大田区西蒲田6-34-7
☎ 3736-1494 fax 3735-4522

藤田りょうこ 検索

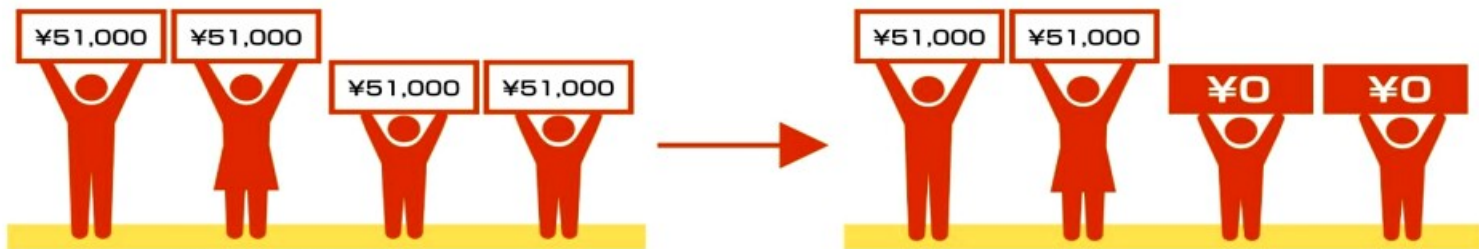
発行 日本共産党東京都議団 新宿区西新宿2-8-1 ☎ 5320-7270

「均等割」は国保だけ

「おかしい！家族が増えるたびに、保険料アップ」

2018年度 **42万6280円**
大田区の場合

共産党都議団の
条例提案 **32万4280円**
子どもの均等割りをなくす



年収400万円夫婦と子2人世帯

ちなみに…同世帯で「協会けんぽ」の場合は約20万円。加入する保険でこれだけの差があるのは不公平です。

国保料
値下げを

党都議団が 条例提案

均等割りは国保だけ

国保の均等割は、0歳の赤ちゃんも含め、国保に入る家族が増えるたびに一定額の負担が増える仕組みです。均等割はこの20年間で2倍近くに、大田区では51000円。さらに、来年度は52200円に上がる予定です。均等割は、雇用されている方が加入する健保組合や協会けんぽなどにはありません。現役世代が入る公的医療保険のなかで、人頭税とも言われる



第一回定例会で国保料値下げの条例提案を行う藤田都議（3月18日）

均等割があるのは国保制度だけです。

子育てしやすい東京を！

子どもの人数が多くなるほど負担も重くなり、子育て支援に逆行しています。子どもの均等割りの軽減を求める声が広がっており、全国知事会などの地方団体も国に対し、改善を求めています。国での検討は進んでいません。

こうした中、国に先駆けて子どもの均等割り負担の軽減を東京都から進め、子育てしやすい東京づくりを推進するため、条例提案しました。



児童虐待防止条例

「子どもが権利の主体」を明記！ 共産党都議団が提案

痛ましい児童虐待死事件が後を絶ちません。東京都の児童虐待防止条例制定に向け、共産党都議団は、社会全体で虐待をなくしていくためには「子どもが権利の主体である」ことを明確にすることが重要であると、議会でも意見を述べてきました。

第一回定例会に出された

条例案の前文に「子どもが権利の主体」であることが明記されたことは重要です。さらに私たちは条文本文にも子どもの権利を位置づけ子どもに「守られる権利」や「意見を表明する権利」があることを明らかにすることが大切であるという立場から、修正案の提案を行いました。

共産党都議団は児童虐待防止に向け、引き続き全力で取り組んでまいります！



児童相談センターを視察した藤田都議、右側（3月4日）

小池都知事は

『築地を守る』 公約実現を

補正予算に6会派が反対、賛成は3会派だけ

築地市場の跡地を市場用地から一般行政財産に移すための、平成30年度補正予算が、都議会の大波乱を経て、3月6日、都民ファーストの会、公明党、東京みらいの3会派の賛成で、可決成立しました。しかし、反対したのは、日本共産党、自民党、立憲・民主クラブ、維新・あたらしい・無所属の会、生活者ネットワーク、自由を守る会の6会派におよびました。日本共産党都



補正予算案に反対票(青札)を投じる藤田都議(3月6日)(長島可純さん撮影。写真の無断転載・二次利用は、遠慮ください)

議団の提案をうけて記名投票が行われ、賛成75人に対し、反対が50人まで迫りました。

知事との一問一答の審議が実現

予算審議をめぐっては、公明党と都民ファーストの会が強引な議会運営を繰り返し、長時間の空転が続くという前代未聞の事態が起きました。こうした中、共産党都議団は知事との一問一答による審議を行うよう提案し、さらに6会派共同による議長への申し入れが大きな力となって、経済・港湾委員会での知事との一問一答が実現しました。

引き続き、公約違反を徹底追及!

築地女将さん会が各会派に提出した要望書には「知事にだまされた」という怒りの声がかかれています。共産党都議団は「小池知事は都民と市場関係者に謝罪し『築地は守る』という公

約を守るべき」という立場から、これからも知事の公約違反を徹底追及してまいります。

党都議団 申し入れ

都営住宅の 住民負担軽減を!

共産党都議団は昨年12月28日、東京都に対し、都営住宅の修繕について住民負担の軽減を図るよう申し入れました。現在都営住宅では、高齢化により年金生活者が増加しています。しかし、風呂釜や給湯器、畳やふすまなどの修繕は、住人の負担で行うことになっており、貯金を切り崩して改修したり、壊れたまま何年も

使わなかったりしています。お話を伺った矢口都営住宅でも、入居して40年以上、一度もたみを取り替えていなかったり、浴槽がまたげず何年もシャワーで過ごされたりしていました。修繕区分の見直しの際には、居住者の意見を聞くことと同時に、「畳表の張替え、障子紙、ふすま紙の張替え、給水



矢口都営住宅の住民から要望を聞く藤田都議(右から二丁目、1月29日)

栓、LED照明の取替え」を借主負担からはずした国交省の賃貸住宅標準契約書の内容を考慮するよう求めました。

羽田空港 機能強化に伴う 新飛行ルートは撤回を!

事実に伴わない データを説明

大田区では2月に国土交通省がこの「新飛行ルート」について住民説明会を開催しましたが、都議会予算委員会にて白石都議は、ここで説明された「最大瞬間騒音」が、実測値でなく特定の気象条件の推計値で示されていることを指摘。国交省への問い合わせで明らかにになった飛行機騒音の

子どもの発育にも影響が

実測値は、同じ高度で6.4倍音が大いことを発しました。北海道大学の松井利仁教授は、大きな騒音は健康被害につながるかと話します。例えば、寝てから90分の間成長ホルモンが出ますが、一度中断されると出なくなるため、昼寝をする乳幼児の発育に影響がでてもおかしくないと指摘しています。

飛行経路は沖合 移転を守れ!

これまで大田区は羽田空港立地自治体として、安全と快適な区民生活第一に国と協議をしてきましたが、その対策が180度変えられようとしています。「海から着陸、海へ離陸」のルールを尊重し、何よりも住民の環境と安全を守るために、引き続き追及してまいります。



略歴



●1974年8月11日生。東京都大田区出身。●1996年東京都立医療技術短期大学看護学科卒。20年間、看護師として従事。●2017年東京都議会議員選挙に初当選。都議会厚生委員●池上在住。

都政へのご意見、ご要望をお寄せください